記入例:子の継続認定

任意継続申出用被扶養者確認書

任意継続申出時に、継続認定を必要とする被扶養者がいる場合は、任意継続加入時以降の状況等にて、以下の該当する項目をすべて記入・☑し、「任意継続組合員申出書」に添付し提出してくだされ 記入日

							作成日	令和 〇 年	月月日	
			任意継続の 以下のとは	の申出にあたり、	継続認定を要	する被扶養者	組合員番号	198	7654	
		14	また、今後	るりてす。 後被扶養者の要件	を欠いた場合に	は、速やかに	組合員氏名	公立	太郎	
引き続き認定を要する被扶養者を記入							電話番号	090-**	**-***	
N		1	理 在被封	養老に認定さ	:カアおり /	任音継結後 #	※結認定を受け上	うとする老	_	
N	(1 現在被扶養者に認定されており、任意継続後も継続認定を受けようとする者 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □								
17	*		氏名	公支	~~	生年月日	〇 年 〇 月 〇	二女	住所也別	
		被	実生活上 同別居等		活費等 金月額	0,000 円	□ 国内 □ 海外:渡	: 統目的 □ 留学	□ 観光・保養等	
		扶養		▶ 義務教育以		・義務教育)	学生 (高校生・大	- -		
		者	認定 理由	□ 家事従事者 □ 収入が少な	別居の場	合は、生活	書等で組合員	(組合員夫婦	別が送金又は負	钼
		1		□収八か少な□その他(員夫婦の合計額			~ 1—
			収入	□ 有 → 公的	有無 レ無		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 	(年額)	358,000 _円	
		⊭		<u></u>		, r				
•			氏名	公立	学	生年月日		^{令和} 続	住民票 世 同一 ¹	
			実生活上		舌費等		D 国内			
		被扶		□ 別居+→ 送□ 義務教育以	金月額 下 (未就学児	円 円 ・義務教育)	- 海外 : 渡 ・学生(高校生・大	: 航目的 □ 留学 - 学 本	□ 観光・保養等	Ц,
		養者	認定			・障がい者・		.,	áする理由に☑、	
		2	理由	□ 収入が少な□ その他(い(パート	アルバイ・	年金受給者・自営業	等)	39 ②垤田ICV.	. 0
			収入	□ 有 → 公的	年金 口有:	年額	円 公的年	F金以外	i	
	l		W/	□無 の7	有無 レ無		の収力	(年額)	856,000円	J
							□ 昭和・ □ 平成・ □	令和 結	住民亜 □ 同一	
							□ 昭和・ □ 平成・ □			
ľ	当	該	被扶養	を者の収入	.]					
	_				_		の実績等から収	又入見込額(
•	任,	意糺	迷続加力	入後の状況	- を想定して	、これまで	の実績等から収			細•
•	任为	意 組 年 7	迷続加ノ ノ月 に被	入後の状況 (扶養者の)	- を想定して 資格確認調	、これまで 査に必要 ⁷	の実績等から収	者の収入確	年額)を記入 認書類(給料明	細•
• :	任为	意 組 年 7	迷続加ノ ノ月 に被	入後の状況 (扶養者の)	- を想定して 資格確認調	、これまで 査に必要 ⁷	の実績等からり なため、被扶養	者の収入確	年額)を記入 認書類(給料明	細・
争	任第二金	意料年7額	継続加力 月に被通知書 通知書 しましま	入後の状況 (扶養者の資 等)の写しる になる 認定を必要	- を想定して 資格確認調 を保管(任) とする被扶	、これまで 査に必要 意継続加 <i>入</i> 養者がいる	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記. る場合】	者の収入確入のみ、提出	年額)を記入 認書類(給料明	細・
参	任每金考丰	意年額 上系	迷続加力 月に被通知書 上のま 新たに記入	入後の状況 (扶養者の資 等)の写しる 認定を必要、せず、認定	を想定して 資格確認調 を保管(任意 とする被扶 とする被扶 要件を備き	、これまで 査に必要 ^ル 意継続加入 養者がいる えた日以降	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記。 「ある」	者の収入確入のみ、提出	年額)を記入 認書類(給料明	細・
参える	任每金一考丰様	意年額 【 に 式	迷続加之 月に被通知書 新たに記 は記入	入後の状況 (扶養者の資 等)の写しる 認定を必要、せず、認定 (世ず、認定)被扶養者記	を想定して 資格確認調 を保管(任意 とする被扶 とする被扶 で要件を備ま 認定申告書	、これまで 査に必要 意継続加入 養者がいる えた日以降 、②扶養事	の実績等から収 なため、被扶養、 手続き時は記. る場合】 に、次の書類を 毎由書	者の収入確入のみ、提出	年額)を記入 認書類(給料明	細•
参える	任每金一考丰様	意年額 【『式定	迷続加入 月知書 上のはこれ いに記入し、 はい、件確	入後の状況 (技養の写しる (学)の写しる (記定を必要、 (対表で) (設定を必認者でいる。 (記書類)	を想定して 経格で(任) とする被扶 とするを備さ とするを備さ とするを備さ でである。	、これまで 査に必要 ⁷ 意継続加入 養者がいる えた日以降 、②扶養事 るものは1音	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記る場合】	者の収入確入のみ、提出	年額)を記入 認書類(給料明) は不要)	
参える	任每金一考丰様	意年額 上【『式定』	迷続に通し新は、要続いが、 がは、性に、 がは、性に、 がは、他に、 がは、他に、 がは、他に、 がは、他に、 がは、これでは、 がは、これでは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	入後養の状況 (後養の状況の) できる	- を想定して を格管(とすの)を とすの。 と要定して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、組織を は、 に、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	、これまで 査に必要 意継続加入 養者がいる えた し、②扶養事 るものは1部 会員が世帯	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記える場合】 ・に、次の書類を ・はまい。 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	者の収入確入のみ、提出を提出。	年額)を記入 認書類(給料明 計不要) <u> </u>	らの)
参える	任每金一考丰様	意年額 上げ 式定 (で)	迷続には 月知 上がは・・ は・・ 件続内 で は・・ は・・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は	入後養の場合では、 (では、) (では	を想定して 経格管(任) とする被決 とするを とするを は とするを は とするを は に に に に に に に に に に に に に に に に に に	、これまで 査継続 着者日 技 る る も る も の が い 後 ま り は り は り は り は り り り り り り り り り り り	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記. る場合】 に、次の書類を発出される。 は、まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	者の収入確入のみ、提出 法出。	年額)を記入 認書類(給料明) は不要)	らの)
参える	任每金一考丰様	意年額 上げ 式定 (で)	迷続には 月知 上がは・・ は・・ 件続内 で は・・ は・・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は	入後養の場合では、 (では、) (では	を想定して 経格管(任) とする被決 とするを とするを は とするを は とするを は に に に に に に に に に に に に に に に に に に	、これまで、これまで、一点に続加入を表表がいる。 養者 日扶は 1 音 前のがの 健す 1 音 勝者、⑥	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記える場合】 ・に、次の書類を ・はまい。 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	者の収入確 入のみ、提出 提出。 記載された個 各喪失証明記 金状況	年額)を記入 認書類(給料明 計不要) <u> </u>	らの)
参える	任每金一考丰様	意年額 上げ 式定 (で)	迷続には 月知 上がは・・ は・・ 件続内 で は・・ は・・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は	入後養のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	を格に、とすのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	、これまで き継続がい 養者日扶は も員前のがのがの 直務者へ で で で で で で で で が い は も し の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の の の の の の の の の の の の の	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記る場合】 に、次の書類を対して、続柄の記録に、強いの場合の送機を対して、	者の収入確 入のみ、提出 提出。 記載された個 を要失証明記 金状況	年額)を記入 認書類(給料明 計不要) <u> </u>	らの)
参える	任每金一考丰様	意年額 上げ 式定 (で)	迷続には 月知 上がは・・ は・・ 件続内 で は・・ は・・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は・ は	入後養のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	を格に、とすのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	、これまで き継続がい 養者日扶は も員前のがのがの 直務者へ で で で で で で で で が い は も し の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の の の の の の の の の の の の の	の実績等から収なため、被扶養、手続き時は記る場合】 に、書いまで、続柄の言葉保険確認: 資格別にの場合の送	者の収入確 入のみ、提出 提出。 記載された個 を要失証明記 金状況	年額)を記入 認書類(給料明 計不要) <u> </u>	らの)

(裏面へ続く)

被扶養者が「子」の場合は、2(1)を記入

夫婦共同扶養・他の扶養義務者の有無等

「配偶者」以外の被扶養者がいる場合は、次の(1)又は(2)を記入。

(1) 当該被扶養者が「子」の場合

被扶養者が「子」で、組合員に配偶者がいて配偶者が被扶養者でない場合は、夫婦共同扶養に該当。

組合員の

□ 有→ □ 被扶養者でない (組合員番号) 配偶者 □ 配偶者も 公主 教子 配偶者 □ 被扶養者 氏名等 組合員 口無

② 夫婦双方の年間収入(見込額)の比較 ※配偶者が当支部組合員の場合は記入不要。

> 組合員の配偶者が、被扶養者又は当支部組合員でない場合は、 ②夫婦双方の年間収入(任意継続加入後向こう1年間)を記入

> > 支び

・夫婦双方の年間収入(任意継ぎ加入後向こう 年間) 見込額

※退職後の収入 組合員 1,600,000 の収入

配偶者 1.450.000 の収入

※ 前年と同程度の場合 は、前年の収入。

(2) 当該被 失養者が「子・配偶者」以外の場合

【組合員の年間収入】

場

退職後の状況を想定して、任意継続加入後向 こう1年間の収入見込み額を記入。

- ※在職時の給与等は含まない。
- ※組合員の方が多い、又は、同程度(年間収 入の差が多いほうの1割以内)であること。

【配偶者の年間収入】

任意継続加入後向こう1年間の収入見込み 額を記入。

前年と同程度の場合は、前年の収入(源泉 徴収票の収入額等)を記入。

口頃から、彼伏養有の収入水沉寺を確認し、被扶養者の給料明細等、収入確認書類を保管してください。毎年7月頃に実施する被扶養者の資格確認調査で、被扶養者の収入確認書類(年金額通知 書・給料明細等)の写しを提出することとなります。

1 被扶養者認定上の所得について

被扶養者認定上の所得とは、所得税法上の所得とは異なり、向こう1年間における恒常的な収 入(税等控除前)の総額で、障害年金、遺族年金等の非課税所得や、傷病手当金、個人年金、利 子、配当、株等による収入等も含みます。

退職金、一括払いの給付金等、その1回限りの収入は含みません。

所得限度額

72 1 1 1 2 2 2 3						
被扶養者の区分	年額	月額(年額÷12)				
障害事由の公的年金の受給要件に該当する者、 又は、60歳以上の者	180万円未満	15万円未満				
当年末日時点の年齢が 19歳以上23歳未満の者(組合員の配偶者除く)	150万円未満	125,000円未満				
上記以外の者	130万円未満	108,334円未満				

- * 雇用保険を受給する場合は、給付日数にかかわらず、基本手当日額×360日で年額に換算。
- * 被扶養者認定後、収入が変動する場合は、毎月の収入総額(税等控除前の支給総額)が、3 か月連続して月額限度額を超過しないこと、及び、直近過去12か月分の合計額が年額限度 額を超過しないことが必要。

3 被扶養者取消事例

- ・勤務先で健康保険に加入した
- ・夫婦共同扶養で配偶者の方が収入が多くなった
- ・3か月連続して月額限度額を超過した ・直近過去12か月の合計額が年額限度額を超過した
- ・勤務先や勤務時間を増やし所得限度額超過が見込める
- ・公的年金が決定し、その他の収入と合わせて所得限度額を超過した
- ・別居で送金を止めた(減額した)
- ・被扶養者が海外で活動するために渡航した